

おんたけ どせきりゅうあと みどり よみが ながのけんせいぶじしんさいがいふっきゅう
御岳の土石流跡に緑を甦らせた長野県西部地震災害復旧 (昭和59年～平成25年)



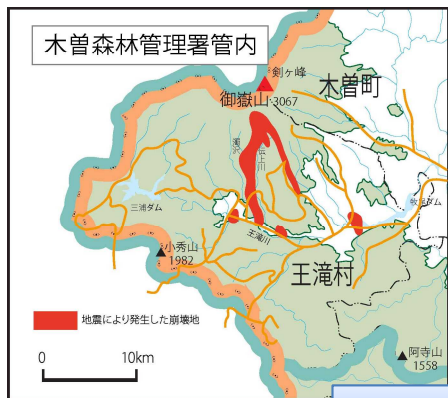
被災直後



施工中(S61)



現在の状況



位置図

○所在場所

長野県木曽郡王滝村御岳国有林

○施設・工法の概要

溪間工(治山ダム工：137基、護岸工：7,743m)
 山腹工：309.73ha(航空実播工：74ha)
 保安林管理道：3,800m



○解説(要約)

昭和59年9月14日、長野県西部地震が発生し、御嶽山周辺に崩壊地や地滑りが発生するとともに、これに伴う大規模な土石流などにより、死者・行方不明者29名を出す大惨事となりました。

特に御嶽山南西斜面においては山麓に大崩壊が発生し、約3,600万m³の土砂が一瞬にして土石流となり、時速約70kmで山麓を駆け下ったことにより約600ha(東京ドーム約130個分)もの荒廃地が発生するとともに、王滝川に天然ダムが出現し、王滝村村民約1,700名の生命・財産はもとより、木曽川下流の岐阜県や愛知県の農業・水道・工業用水の主要な供給源となっている牧尾ダムへの甚大な被害が懸念されました。

そのため、被災直後には全国の治山技術者が結集し復旧にあたるなど、30余年にわたって数々の困難を克服しつつ被災地の復旧を行い、荒廃地に森林を回復させ、地域住民に大きな安心感を与えるなど、国民の生命・財産を守ることに貢献しています。

また、王滝村、森林管理署、新聞社などが協力し、木曽川下流の都市部などの住民が参加してボランティアで植樹等を行う「未来世紀につなぐ緑のバトン」事業が毎年開催されており、防災、水源に対する住民意識の醸成や都市との交流に役立っています。